



# 環境・社会報告書

ENVIRONMENTAL AND SOCIAL REPORT

2019



日本飛行機株式会社



## ごあいさつ



代表取締役社長  
小島 俊文

昨年度までの「環境・社会報告書」は印刷物にして従業員及び関係者の皆様へ配布して参りましたが、環境負荷軽減の観点から今年度からは弊社ホームページでの閲覧のみとさせていただきます。

環境問題に対し私たちができることは、よく言われる4R(やめる、減らす、再利用、リサイクル)が基本となりますが、その1つである「やめる」を本報告書配布にも適用させて頂いた次第です。

また、国際民間航空機関(ICAO)においては、今年1月から民間の国際便の二酸化炭素排出量情報を収集するための測定、検証に関する詳細フレームワークを規定した条約が採択され、2050年には05年比で二酸化炭素排出量を半減させる目標も掲げています。

航空機製造に携わる当社としましても、JIS Q 14001:2015年版を適用した環境方針のもと資源・エネルギーの有効利用、環境負荷の軽減等の実現を目指すことで、企業活動と環境の調和に今後とも努めてまいります。

皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、「環境・社会報告書2019」の発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。

## 環境方針

### 基本理念

日本飛行機株式会社は、航空宇宙の分野で製造と整備を核に高品質の製品・サービスを社会に提供する企業である。当社は、地球環境問題が次世代以降にも及ぶ社会構成員総てに関わる最重要課題の一つであることを認識し、持続発展可能な社会の構築に向けて、あらゆる面で地球環境の保全に配慮した事業活動を実施する。

### 基本方針

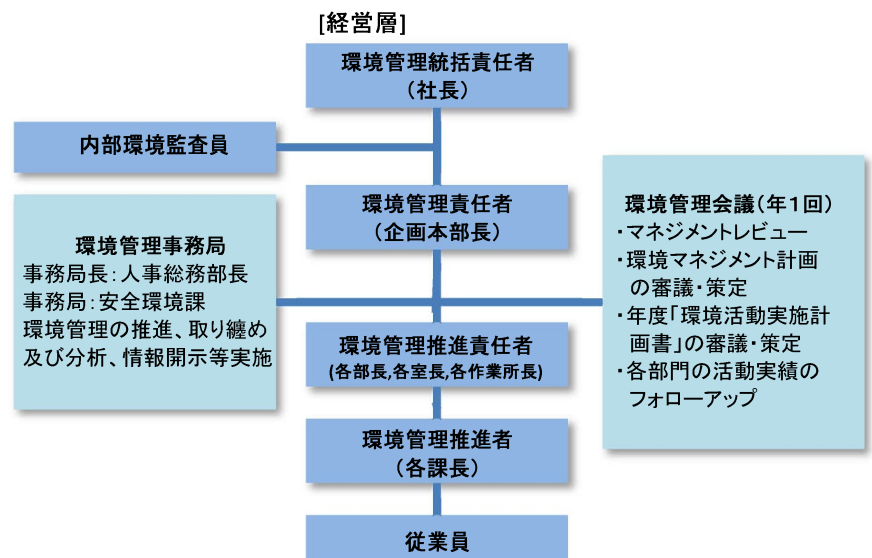
1. 製品の研究、開発、設計、製造、修理、整備におけるライフサイクルの全ての段階で、発生し得る環境影響を認識し、事業活動が地球環境に与える影響を的確に捉え、使用資源・エネルギーの有効利用、環境汚染物質並びに廃棄物の分別・処理の適切な管理及び削減を行い、地球環境の保護と地球環境汚染の予防に努める。
2. 事業活動に当たっては、環境に影響を及ぼす活動、製品及びサービス(以下、環境側面と呼ぶ)に関連する国際条約、法律、規則及び協定等を遵守する。
3. 全社の環境側面並びに法的要求事項、環境状態、利害関係者のニーズ及び期待、外部及び内部の課題等に関するリスク及び機会から実施計画を定め実行する事により、環境パフォーマンスを継続的に改善する。
4. 環境教育により社員及び当社のために働くすべての人の環境保全活動に対する理解と、環境に関する意識向上を図る。
5. この環境方針を社員及び当社のために働くすべての人に周知する。また、この方針は外部からの要求に応じ随時提供できるものとする。

## 体制

私たちは「環境管理総括責任者」(社長)をトップとした体制を構築し、環境負荷軽減に向けた取り組みを推進しています。

「環境管理責任者」(担当役員)を議長とする「環境管理会議」を毎年開催しています。活動実施計画の策定及び評価を行い、運用状況をチェックすることによって、環境負荷軽減に向けた仕組みが効果的に機能している事を確認しています。

当社はJIS Q 14001を2006年に取得し、2017年にJIS Q 14001:2015を取得。環境管理を継続的に改善しています。





取締役(企画本部長)  
[環境管理責任者]

藤本 泰司

「環境・社会報告書2019」の発行にあたり、環境管理責任者として一言ご挨拶申し上げます。

当社は、「環境方針」を定め、基本理念の下、資源・エネルギーの有効活用、事業活動における環境負荷の軽減を図り、環境との調和に努めています。

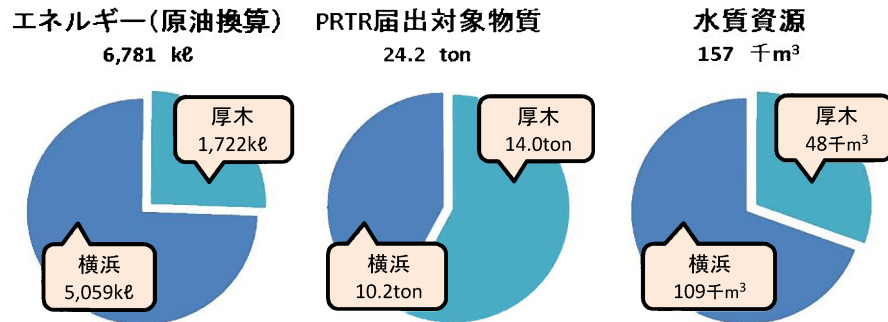
本報告書は、当社が毎年策定している環境マネジメント計画に基づき実施している環境活動について、活動の概要をステークホルダーの皆様にご報告するものです。

昨年同様に全社の環境目標実施項目を決定し、事業活動を通じて環境活動に取り組み、年度の目標値を達成することができました。

引続き信頼と安全の実現といったニーズに応える製品・サービスをお客様に提供することを通じて、豊かな生活や社会の発展に貢献するとともに、ステークホルダーの方々とのコミュニケーションをふまえ、多様な環境保全活動や社会課題への取り組みを推進することにより、社会的責任を果たすことを目指しています。活動内容にご理解いただき、さらなるご支援とご鞭撻を頂ければ幸いに存じます。

## 事業活動による環境負荷

### インプット



### アウトプット

		横浜工場	厚木工場
大気放出	CO <sub>2</sub>	9,555 ton	3,420 ton
	PRTR届出対象物質	6 ton	6 ton
廃棄物	一般廃棄物	190 ton	84 ton
	産業廃棄物	265 ton	173 ton
	特別管理産業廃棄物	108 ton	48 ton
水系排出	下水	49 千m <sup>3</sup>	25 千m <sup>3</sup>
	河川等	44 千m <sup>3</sup>	14 千m <sup>3</sup>
	COD ※1	1未満 ton	- ton
	BOD ※2	- ton	- ton

※1 化学的酸素要求量 ※2 生物化学的酸素要求量

## 工場別活動報告

### ■横浜工場

【所在地】 神奈川県横浜市金沢区昭和町3175  
 【土地面積】 151,575m<sup>2</sup>  
 【事業内容】 航空機部分品、標的システム、ロケット部分品、宇宙機器の製造

### ■厚木工場

【所在地】 神奈川県大和市草柳2-28  
 【土地面積】 73,860m<sup>2</sup>  
 【事業内容】 航空機の整備・改修・改造

#### ●主な環境活動内容

実施項目	目標	実績
エネルギー原単位の削減	18.13kℓ/千Hr以下	18.00kℓ/千Hr
一般廃棄物の削減	2009年より運用管理に移行済み	
環境汚染防止のための設備更新	2件	2件

#### ●主な環境活動内容

実施項目	目標	実績
エネルギー原単位の削減	4.21kℓ/千Hr以下	4.18kℓ/千Hr
一般廃棄物の削減	2013年より運用管理に移行済み	
環境汚染防止のための設備更新	1件	1件

## 環境活動

環境活動の内容を以下に紹介いたします

### 工場内照明のLED化



横浜工場では工場外灯、厚木工場では第2ハンガー、第4ハンガーの照明をLEDに更新し、工場の省エネルギー化を推進しています。

### 地域社会との関わり



工場周辺の環境美化を目的として、工場周辺の一般道や公園のゴミ拾いを実施しました。また、地域の環境保全企業団体に参画し、環境美化活動および環境保全啓蒙活動を実施しました。

地域社会へ貢献することに加え、従業員一人ひとりの環境保全意識の向上に心掛けております。

## 認証取得

適用規格: JIS Q 14001:2015

### 横浜工場

- ・航空機部分品及び航空機関連の装備品、地上支援器材、教育・訓練器材、誘導機器構成品の設計・開発、製造及びサービス提供(修理等)
- ・宇宙機器部分品の設計・開発、製造及びサービス提供(修理等)

横浜工場に含まれる共同事業所

日飛スキル株式会社

- ・航空機部分品及び航空機関連の装備品、地上支援器材、教育・訓練器材、誘導機器構成品の製造及びサービス提供(修理等)

### 厚木工場

- ・固定翼航空機、回転翼航空機、地上支援器材及び誘導機器構成品のサービス提供(修理、整備等)
- ・固定翼航空機及び回転翼航空機の改造設計、改造及びサービス提供(修理、整備等)
- ・固定翼航空機、回転翼航空機、地上支援器材及び誘導機器構成品の部品の製造



BSKE022

### 関連業界や地域からの情報、苦情及び法令遵守状況

2018年4月～2019年3月の期間中では、近隣住民より以下のような苦情がありました。その他、法令違反、行政処分はありませんでした。

- 厚木工場の近隣住民より第5ハンガーから夜間に騒音がするとの問い合わせに対し、音の原因となった空調機の運転時間管理の適正化を図り対応しました。

今後も法令を遵守し、地域環境に配慮した事業活動を推進してまいります。



日本飛行機株式会社

〒236-8540 神奈川県横浜市金沢区昭和町3175

TEL:045-773-5100 FAX:045-773-5102

<http://www.nippi.co.jp>

本掲載データは、2018年4月～2019年3月を対象としています。